

The Japanese Onco-Cardiology Society

日本腫瘍循環器学会

会報

2022/7

No.3

目次

- 理事長挨拶 1
- 教育 web セミナー 2
- 第5回（2022年）
日本腫瘍循環器学会学術集会開催のお知らせ
..... 3
- 第4回（2021年）
日本腫瘍循環器学会学術集会開催のご報告
..... 4
- 学会報告
American Society of Clinical Oncology (ASCO) annual meeting 2022 5
- 施設紹介
佐賀大学医学部附属病院 6
- 役員名簿 7



一般社団法人
日本腫瘍循環器学会

<http://j-onco-cardiology.or.jp>

理事長挨拶

会員の皆様

一般社団法人 日本腫瘍循環器学会
理事長 小室 一成

新型コロナウイルス（COVID-19）感染がいまだに終息せず、診療や研究活動にさまざまな影響を受け、その対応で大変ご多用のことと存じます。一日も早い感染の終息と、感染された方々の快復を心よりお祈り申し上げます。

日本腫瘍循環器学会ですが、2017年10月の設立以来、会員数も着実に増加し、各種委員会活動も活発化してまいりました。世界的に注目度が高まっている腫瘍循環器学ですが、最近発表された論文*によると我が国からの腫瘍循環器に関する論文数は世界5位であり、我が国における研究も盛んになってきたことが伺えます。これもひとえに会員の皆様のお力添えのおかげと深く感謝申し上げます。

この度、会員向けの会報（第3号）をお届けします。本号では、2022年9月17日（土）、18日（日）において開催予定の第5回日本腫瘍循環器学会学術集会に関するお知らせや、海外で開催された学会としてASCO2022の参加報告、教育委員会からの報告、施設紹介といった内容となります。これからも、腫瘍循環器領域の診療や学術に関するコンテンツを会員の皆様に発信してまいりますので、会員の皆様にお役立ていただければ幸いに存じます。

末筆ながら会員の皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。

*Shi S, et al. Current Problems in Cardiology 2022

教育 web セミナー

本セミナーはがん治療に携わる皆様への教育を目的に学会として企画をいたしました。
学会監修の「腫瘍循環器診療ハンドブック」に沿った内容で、ご執筆いただいた先生方にご解説いただき、2週間ごとにアップしております。出版社とは関係なく非営利の企画です。皆様の診療に少しでもお役に立てますと幸いです。

日本腫瘍循環器学会 presents

教育webセミナー

好評公開中！

がん治療に携わる皆様への教育を目的に学会として企画！
学会監修の「腫瘍循環器診療ハンドブック」に沿った内容で
ご執筆いただいた先生方にご解説いただきました。

※出版社とは関係なく非営利の企画です。



一般社団法人
日本腫瘍循環器学会
教育webセミナー



学会公式サイトTopの
このバナーをクリック！



第5回日本腫瘍循環器学会学術集会開催のお知らせ

- 会期：** 2022年9月17日（土）～18日（日）
完全WEB開催
- 大会テーマ：** THE NEXT STAGE OF ONCO-CARDIOLOGY
エビデンス協奏のステージへ
- 会長：** 小室 一成（東京大学大学院医学系研究科 循環器内科学）
- 学術集会事務局：** 東京大学大学院医学系研究科 循環器内科学
〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1
- 事務局担当：** 石田 純一、原田 睦生

ごあいさつ

この度、第5回日本腫瘍循環器学会学術集会（2022年9月17日～18日）を開催させていただくことになりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

未曾有の超高齢社会を迎えたわが国では、死因の第1位が悪性腫瘍、第2位が心疾患であり、両者を合併する患者も年々増加しています。また目覚ましい治療の進歩によりがん患者の予後も年々向上していますが、一方で分子標的治療薬をはじめとするがん治療薬による心血管毒性が注目されるようになってきました。このような背景から世界的に腫瘍循環器学という学際領域が注目されるようになり、わが国においても2017年に日本腫瘍循環器学会が発足し、学術集会も今回で節目となる5回目を迎えます。

今回の第5回学術集会（JOCS 2022）では、我が国の腫瘍循環器学の飛躍的な発展を期して、テーマを「THE NEXT STAGE OF ONCO-CARDIOLOGY エビデンス協奏のステージへ」としました。最新的话题を取り上げるだけでなく、産官学が協力して新しい腫瘍循環器学のエビデンスを構築する場となることを希望します。また海外の腫瘍循環器学の動向にも目を向けるべく、アジア諸国におけるOnco-cardiologyの現状と課題をディスカッションするAsian Pacific Society of Cardiology (APSC)とのジョイント企画やwebを活用して各領域をリードする欧米の多くの研究者によるKeynote lectureを予定しています。さらに新しく多くのAwardを設けましたので質の高い研究発表を期

待っています。このような取り組みを通じて腫瘍循環器領域の診療や研究のレベルを高めていくことが重要である一方で、日常臨床において腫瘍循環器学の認知度はまだまだ十分といえるレベルにはなく、その裾野を広げていくことも重要です。そこでコメディカルを含めて腫瘍循環器診療に精通していない医療従事者も参加しやすいよう、教育セミナーやクイズ王決定戦を企画しましたので、これを機にこの領域への関心をより高めて頂けましたら幸いです。

今回ハイブリッド形式による開催を考えておりましたが、最近になりBA5変異株による第7波が急速に拡大しており、県外に出ることを許可していない施設も少なくないと聞いております。そこで誠に残念ではありますが、今回も完全webによる開催とさせていただくことにしました。

しかしオンラインの良さを生かした集会にしたいと存じますので、より多くの医療従事者や研究者の皆様の御参加をお待ち申し上げます。本学術集会が腫瘍循環器学の大きな発展につながるように、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

2022年（令和4年）6月吉日

第5回日本腫瘍循環器学会学術集会 会長
小室 一成
（東京大学大学院医学系研究科循環器内科学教授）

「第4回学術集会開催のご報告」

第4回日本腫瘍循環器学会学術集会をState of the art onco-cardiology 最新の腫瘍循環器学—わが国の現状と課題—のテーマの下に2021年10月12-14日にweb配信で開催しました。参加者は計590名で、過去最大の参加者数でした。内訳は会員276名、非会員160名、医師以外のメディカルスタッフ154名で、多くの他職種の方にも参加いただきました。

プログラムの内訳は、特別講演2題、シンポジウム7セッション29演題、ミニシンポジウム1セッション2演題、教育講演4セッション5演題、ランチョン・イブニングセミナー9セッション15演題、一般演題（口演）9セッション46演題、一般演題（オンデマンド）63演題、でした。特別講演は、Duke UniversityのDuke Cancer InstituteのDr. Susan Faye DentにCardio-Oncology: Viewpoint from an oncologist and founder of the Global Cardio-Oncology Summit (GCOS)、東京大学定量生命科学研究所の岡崎拓先生に抑制性免疫補助受容体PD-1によるがん免疫と自己免疫の制御、のタイトルでご講演いただきました。腫瘍循環器学の最新的话题を学ぶと共に、日常診療における腫瘍循環器学領域の現状と課題について広く議論することが出来た学会になったのではないかと考えます。

COVID-19の影響を受け、第3回に引き続き第4回学術集会もweb開催となりましたが、お陰様で盛会のうちに終了することができました。開催にあたり会員の皆様には多大なご協力をいただき誠にありがとうございました。学会事務局とともに厚く御礼申し上げます。

最後に、会員の皆様の益々のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

2022年（令和4年）6月

第4回日本腫瘍循環器学会学術集会 会長

石岡 千加史

（東北大学大学院医学系研究科・臨床腫瘍学分野 教授）

第4回日本腫瘍循環器学会学術集会 事務局長

高橋 雅信

（同・准教授）

● 学会報告 ●

American Society of Clinical Oncology (ASCO) annual meeting 2022

2020年から2年間に亘りCOVID-19 pandemicによりASCO annual meetingがvirtual meetingとなり、2022年も引き続きvirtual meetingと考えていました。しかし、発表者は万々に備えてalternative speakerを指名し現地参加が原則とASCOから通達があり、急遽シカゴ入りの準備をしました。当初は久しぶりの海外出張に喜びを感じていました。しかし、渡航準備の大変さ(2022年6月1日時点:渡航前24時間以内陰性証明、学会へのワクチン3回接種証明提出、航空会社やCDCへの所定文書提出、日本帰国前72時間以内陰性証明提出のためのPCR検査予約、入国審査用アプリへの必要文書アップロードなどなど)に気が重くなり、さらには帰国できないのではという不安の中で渡航しました。しかし、写真のように海外の研究者と実際に議論する喜びと、virtual meetingでは味わえない良さも思い出し、やはりScientific meetingに参加することの意義を実感しました。

今年のASCO annual meetingで最も注目を集めた演題は、HER2低発現の既治療切除不能・転移性乳癌に対するTrastuzumab deruxtecan (T-DXd)の有効性を検証するランダム化第Ⅲ相試験(DESTINY-Breast04)でした。本研究は、ASCO2022のPlenary sessionでの発表終了後にStanding ovationとなる筆者には初めての経験でした。尚、本研究結果はThe NEW ENGLAND JOURNAL of MEDICINEに同時発表となっています¹。本研究はこれまで治療対象ではなかった約50%程度を占めるHER2低発現(IHC1+ or IHC2+/FISH-)患者に対するT-DXdの有効性を検証するこれまでの常識に挑戦する試みでした。実際に、T-DXdは化学療法と比較してPFS(中央値) 9.9ヵ月 vs. 5.1ヵ月(HR 0.50, $p < 0.0001$)、OS(中央値) 23.4ヵ月 vs. 16.8ヵ月(HR 0.64, $p = 0.0010$)を有意に改善し、常識を打破する結果となった。安全性では、やはり間質性肺炎は全グレード/G3以上(12%/2.1%)に生じており注意が必要だが、HER2を標的とする治療で問題となる左心機能異常については、EF低下は全グレード/G3以上(4.3%/0.3%)、心不全は全グレード/G3以上(0.5%/0.3%)と一般的なHER2標的治療における報告よりも低い結果であった。しかし、今後T-DXdによる治療対象が広がることで心機能異常の報告が増える可能性があり注意が必要と考えられました。

その他には、免疫関連心機能障害に関して前向き試験からのpooled analysisの報告があり、同時にJournal of Clinical Oncology誌に発表となっている²。抗PD-1/PD-L1抗体を含む臨床試験に参加した患者(N=6925)のうち、40人(0.6%)にMajor Adverse Cardiac Events(MACE)を生じていた。最も多いのは心筋炎(N=18, 45%)で、急性冠症候群(ACS, N=8, 20%)が続いた。MACE発症までの中央値は28日で、12人(30%)がICU管理、9人(23%)が死亡している。治療法別頻度は、PD-1/PD-L1抗体単独では0.47%で、PD-1/PD-L1抗体と分子標的薬の併用で2.1%と最も頻度が高かった。また、免疫関連心筋炎を生じた18人中12人(66%)がPD-1抗体とCTLA-4抗体の併用、5人(28%)がPD-1/PD-L1抗体単独でした。

ASCO2022に現地参加することで刺激を受けると共に、免疫関連心筋炎に関しては今回紹介した発表以外にも、末梢血のsingle cell RNA sequencingを利用した重症度予測の試み(#2507)や、免疫関連心筋炎に対するステロイド治療に対するアダパセプトの上乗せ効果を検証するランダム化試験が行われている情報もあり、COVID-19 pandemicの中でも確実に研究が進んでいることを実感しました。



- 1.Modi S, Jacot W, Yamashita T, et al. Trastuzumab Deruxtecan in Previously Treated HER2-Low Advanced Breast Cancer. *New England Journal of Medicine* 2022.
- 2.Naqash AR, Moey MYY, Tan X-WC, et al. Major Adverse Cardiac Events With Immune Checkpoint Inhibitors: A Pooled Analysis of Trials Sponsored by the National Cancer Institute—Cancer Therapy Evaluation Program. *Journal of Clinical Oncology*; 0(0): JCO.22.00369.

執筆者:清田 尚臣

神戸大学医学部附属病院腫瘍センター 特命准教授
〒650-0017 神戸市中央区楠町7-5-2
神戸大学医学部附属病院腫瘍センター
E-mail: nkiyota@med.kobe-u.ac.jp

施設紹介

No.3

佐賀大学医学部附属病院

佐賀大学医学部附属病院は、佐賀県唯一の大学病院であり、特定機能病院また県のがん拠点病院に指定されています。日本腫瘍循環器学会には設立時から、循環器内科の野出孝一教授と血液・腫瘍内科の私（木村晋也）が理事として参画しています。これらの診療科に加え、横断的診療班として臨床腫瘍班および止血・血栓診療班などがあり、協力し腫瘍循環器に関する臨床・研究を進めています。

進行がん患者では、静脈血栓塞栓症（VTE）はしばしば発生し、時に致命的となります。しかしアジア人のVTEリスク因子の前向き研究は限られており、特に血液バイオマーカーの研究は不足しています。佐賀大学では2020年から、VTE高リスクと推定される化学療法を受ける進行がん患者200名に対して、前向き観察研究（PRiDICT研究）を実施し、現在論文投稿中です（研究責任者；荒金尚子先生）。本研究では、化学療法を受ける進行固形がん（6つの固形がん）患者を対象とした事もあり、VTEの発症は9%とアジア人での研究としては比較的高率でした。また可溶性フィブリン（SF）の治療開始前の高値が、VTE発生と有意に関連することが示唆されました。本研究の結果が、がん患者のVTEリスク検討において重要な知見となる事を期待しています。

もう一つ積極的に進めている研究として、2019年に日本腫瘍循環器学会の「チーム医療賞」を受けた「術前中止薬管理Webアプリの開発」があります。一定の出血が想定される侵襲的医療行為を

施す際には、事前に抗血小板薬や抗凝固薬などの服用中止・継続を担当医師が判断し、適切な休薬期間を患者に指示する必要があります。中止忘れや不適切な中止を予防し、ガイドライン等根拠に基づいた休薬の判断を支援するため、「術前中止薬管理 Webアプリ」の開発を行っています。このWebアプリでは、服用中の薬の種類や病状に伴う血栓リスク及び手術の種類に応じた出血リスクを画面上的フォームから入力することで、根拠に基づいた休薬期間を典拠とともに提示できることが特徴となっています。2018年からは院内限定で利用し有効性・安全性を検証するとともに、ガイドライン等の改定がなされた場合には随時情報を更新してデータの最新化を図ってきました（*Medicine* 2020）。他の医療機関からも利用したいとの要望を沢山頂き、2022年1月より本アプリの院外への無料配布を開始致しました。本アプリの利用は医療関係者に限定しており、当院の専用HPからの利用者登録が必要となっています。（<https://yakuzai.med.saga-u.ac.jp/info/pharmacy/>）

また私の専門である慢性骨髄性白血病では、チロシンキナーゼ阻害剤（TKI）により生存が長期可能になるにつれ、TKIによる心血管障害が問題になるようになってきました。そのため薬の減量や中止が必要と考え、佐賀大学を中心に多施設共同研究を行いました。そして70歳以上の高齢者では第2世代TKIであるダサチニブは標準量の1/5量でも十分に有効であり、有害事象も少ないことを明らかにしました（*Lancet Haematol* 2022）。また2次使用でも1次使用でも、約半数の患者は安全にダサチニブを中止できることを報告しました（*Lancet Haematol* 2015, *Lancet Haematol* 2020）。今後さらに、減量や中止が及ぼす心血管系への影響を検討していきたいと考えています。

ようやくコロナの暗雲にも明かりが見えだしてきたと思います。これを契機に、日本腫瘍循環器学会のさらなる発展に少しでも貢献したいと佐賀大学一同考えております。

木村 晋也
佐賀大学医学部内科学講座 血液・呼吸器・腫瘍内科

佐賀大学医学部附属病院 術前中止薬管理Webアプリ



● 役員名簿 ●

理事長	小室 一成	(東京大学大学院医学系研究科)
副理事長	南 博信	(神戸大学大学院医学研究科)
理事	赤司 浩一	(九州大学大学院医学研究院)
	秋下 雅弘	(東京大学大学院医学系研究科)
	安斉 俊久	(北海道大学大学院医学研究院)
	石岡 千加史	(東北大学大学院医学系研究科)
	石坂 信和	(大阪医科大学)
	泉 知里	(国立循環器病研究センター)
	伊藤 浩	(岡山大学大学院医歯薬総合研究科)
	大須賀 穰	(東京大学大学院医学系研究科)
	絹川 弘一郎	(富山大学大学院医学薬学研究部)
	木村 晋也	(佐賀大学医学部)
	斎藤 能彦	(奈良県立医科大学)
	佐瀬 一洋	(順天堂大学大学院医学研究科)
	坂田 泰史	(大阪大学大学院医学系研究科)
	佐田 政隆	(徳島大学大学院医歯薬学研究部)
	竹石 恭知	(福島県立医科大学)
	田村 研治	(島根大学医学部附属病院)
	筒井 裕之	(九州大学大学院医学研究院)
	戸井 雅和	(京都大学大学院医学研究科)
	中村 真潮	(陽だまりの丘なかむら内科)
	野出 孝一	(佐賀大学医学部)
	萩原 誠久	(東京女子医科大学)
	平田 健一	(神戸大学大学院医学研究科)
	三谷 絹子	(獨協医科大学)
	南野 徹	(順天堂大学大学院医学研究科)
	向井 幹夫	(大阪国際がんセンター)
	室原 豊明	(名古屋大学大学院医学系研究科)
	保田 知生	(星ヶ丘医療センター)
	矢野 真吾	(東京慈恵会医科大学)
監事	長谷部 直幸	(旭川医科大学/江別市立病院)
	畠 清彦	(国際医療福祉大学/山王メディカル センター予防医学センター)
幹事	赤澤 宏	(東京大学大学院医学系研究科)
	岡 亨	(大阪国際がんセンター)
	清水 千佳子	(国立国際医療研究センター病院)
	照井 康仁	(埼玉医科大学)

● 編集後記 ●

例年より早い梅雨明けのあと、夏本番を前にす
でにうだるような暑さの日々ですが、皆様、い
かがお過ごしでしょうか？

日本腫瘍循環器学会会報第3号をお届けします。
昨年の第4回学術集会はweb開催ながら過去
最高の参加者数となったとのこと、またご紹介
させていただいた佐賀大学医学部付属病院の取
り組みからも、国内でも腫瘍循環器マインドが
徐々に現場に浸透し、学際的な研究の種から芽
が出て、花を咲かせだしていることに勇気づけ
られます。

新型コロナ禍が少し落ち着きをみせた7月上旬
は、他の学会では会場参加の方の人数が増え、
マスク越しながら参加者どうしなつかしく語ら
う姿が目につきました。残念ながら感染者が再
び増加に転じ9月の第5回学術集会はweb開催
となってしまいましたが、ますます盛り上がっ
ている腫瘍循環器の最新情報を皆様と共有でき
るのを楽しみにしております！

幹事 清水千佳子



日本腫瘍循環器学会 会報

(年1回刊行)

第3号 (2022年7月)

発行 / 一般社団法人 日本腫瘍循環器学会

編集 / 一般社団法人 日本腫瘍循環器学会事務局
(一般社団法人 学会支援機構)

● 入会案内 ●

正会員：この法人の目的に賛同して入会した個人
または団体（年会費：8,000円）

賛助会員：この法人の目的に賛同し、この法人を
資金的に援助する個人および団体（年会費：1口
50,000円 口数に制限はありません）